

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4590800019		
法人名	医療法人隆徳会		
事業所名	グループホームあさひ		
所在地	宮崎県西都市旭1丁目50番地		
自己評価作成日	平成28年9月25日	評価結果市町村受理日	平成28年11月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/45/index.php?action=kouhou_detail_2015_022_kanistrue&jigyouCd=4590800019-00&PrefCd=45&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会		
所在地	宮崎市原町2番22号宮崎県総合福祉センター本館3階		
訪問調査日	平成28年10月27日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自宅のような環境の中で庭の草木や虫などに四季を感じてもらい入居者がその人らしく生活が送れるように支援しています。行事食にも力をいれ食べる楽しみを持ってもらうよう努めています。また、利用者とのコミュニケーションを大切に、安心して落ち着いて過ごせるよう努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームが理念に掲げる「明るい雰囲気では利用者と一緒に過ごす所で、利用者が満足する支援を行う」の実践に積極的に取り組んでいる。また、全職員で利用者ができること、やりたいことを日々のケアの中で発見し、見守る姿勢とさりげない介助で実現しようと努めている。介護計画に掲げる目標に沿った支援であるかを介護記録から検討し、全職員が利用者一人ひとりの介護目標を日々認識して支援している。邸宅がそのままホームとなっており、利用者が自宅のように安心して過ごせる環境となるよう努めている。食事に好みの献立を取り入れたり、健康に配慮したお茶ゼリーやヨーグルトを毎日作るなど、食事への楽しみを高めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員全員、理念を共有し、尊厳と入居者本位の生活が過ごせるよう実践に努めている。	ホームの特性を実践につなげるよう、「利用者が満足して楽しく過ごせる場を作り支援する」と独自の理念を掲げている。管理者を中心に、全職員で理念に沿った支援に日々取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域とのつながりがなかなかできないが地域内の散歩やスーパーへの買い物などで声をかけていただいている。もっと地域の一員としての交流が図れるようにしていきたい。	ホームには門扉や巨木のある庭園があり、外から見えにくい設計である。管理者は、地域との交流を図りたい思いを区長に伝え、近隣者を行事に招待したり、巨木を低くするなど、「ホームの見える化」に取り組んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設見学に来られた方や地域の方の相談等で認知症の理解や支援の方法を提供している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議にて入居者の情報報告を行い、情報交換や意見、アドバイス等を頂くことで施設にて話し合い、検討してサービス向上に生かしている。	ホームと委員の双方向的な会議になっている。住宅型有料ホームと比較する際に、わかりやすいホームのパンフレットが必要ではないかとの助言を具体化して以降、問い合わせや相談が増えている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議により、情報交換を行ったり、日頃から、各方面の担当者からも電話連絡等で情報交換を行い、協力関係を築くよう取り組んでいる。	管理者は、月1回は市に出向き、電話でホームの状況や問題点を相談している。本人の意向をかなえるために市に相談し、ホームに住民票を移した事例もある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ミーティングやカンファレンス等で身体拘束の話し合いを行い、職員全員、理解できている。原則、身体拘束は行っていないが外門は不審者対策で施錠することがある。	職員は身体拘束の弊害について理解している。ホームは設計上見通しが悪く、玄関は段差や敷石で転倒しやすい。入浴や受診同行で職員が少なく、転倒予防に短時間安全柵を使用したり、不審者の侵入以後は門扉に施錠することもある。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ミーティングにて虐待防止の話し合いや研修を行い虐待防止を徹底している。日頃より言葉使いや接遇についても注意し合い、気をつけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	後見人制度を活用されている方が1名おられ実際に関わりがあることで学ぶ機会もあり、研修や毎月のミーティングでも勉強会を行い必要性のある方に支援できるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時の契約は十分に説明を行い納得の上、契約している。不安や疑問点も尋ね、理解、納得できるように図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族からは家族会や面会時には意見や要望を出して頂くようにしている。入居者からも常に意見や要望を聞き、ミーティング等で話し合い、運営に反映するように努めている。	毎月「あさひ便り」で利用者の状況を知らせ、来訪時や利用料の持参時に意見などが出しやすいようにしているが、運営に反映するまでには至っていない。運営推進会議にも家族は参加していない。	運営推進会議や外部評価結果などの情報を家族に公表し、また、家族アンケートを実施するなど、更なる家族の意向の把握に期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングや毎日の申し送り等で職員の意見や提案を聞き、運営に生かしている。働く意欲や質の向上に反映させるように努めている。	毎月のミーティングや日々の申し送りで、利用者支援のケアのあり方を共有している。バランスが不安定な利用者にひじ掛け椅子をとの要望を受けて購入するなど、意見を反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の努力や実績、勤務状況を把握して各自がやりがいや責任、向上心を持って働けるように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員個々のスキルアップができるように外部研修や施設研修の機会をもうけている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡会や同事業所内のグループホームの月1回の勉強会などで他施設の情報や意見にて質の向上に取り組んでいる。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居相談時から本人、家族より意見、要望を聞き、本人の声に耳を傾けながら、本人の不安を取り除き安心できる関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居相談時から家族の困っていることや要望を聴き家族と問題を共有し安心してもらうような関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族から意見や要望を聴きながらアセスメントを行い、必要な支援をケアプランに反映、サービス対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	自宅のような環境の中、調理の下準備や洗濯物たたみ等それぞれができることをして頂き家族のような関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時には本人とのふれあいの場を設け、大切な時間を過ごせるようにしている。本人の状態報告も行い、共に支える関係づくりに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族以外の近隣の方や知人の方、馴染みの人の面会時には以前と同じように過ごせるような環境をつくり、関係が途切れないように支援している。	電話や外出、面会など、個々の利用者に必要な支援は家族の協力が大きい。家族へ年賀状を出す支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	全ての生活の場面で配慮を行い、それぞれの入居者らしく関わりあえるよう支援を行っている。トラブルについてもお互いの人格を傷つけないよう介入し、よりよい関係作りに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院や他施設に入所されても家族に許可を頂き、面会に行ったり、家族との情報交換も行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の思いや意向を常に会話等や家族からの情報から把握に努めている。本人の意向に沿った暮らし方ができるように検討している。	利用者の担当職員が、主体的に思いや意向、暮らし方の希望等を細かに聞き取り、家族や関係者からの情報も収集して把握に努めている。ミーティングで検討し、職員間の情報の共有を図り、利用者の希望に沿えるよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前からの生活歴や暮らし方の生活環境の情報を家族から聞き取り、サービス利用に繋げている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の申し送りで一人ひとりの1日の過ごし方の把握を行い、心身の状態を見ながら出来ること、出来ないことの把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のミーティングにて課題やケアのあり方、家族からの意見や各担当からのモニタリングなどから話し合いを行い、ケアプランを作成している。	本人、家族の意向は、日々及び家族の来訪時に聞き取り、担当職員が毎月モニタリングを実施して介護計画を作成し、見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の介護記録や業務日誌、申し送りノートを活用し職員間で情報を共有し、日々のケアに反映、介護計画に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の一人ひとりの状況、ニーズに柔軟に対応するように努めている。また、法人内の他事業者の施設、訪問看護等と連携をとり支援に取り組んでいます。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の方とのふれあいが中々出来ない中、区長や民生委員の方に敬老会に参加をして頂いたり近所のスーパーに買い物に行ったり、散歩やドライブ等で豊かな暮らしを楽しむことができるように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族希望のかかりつけ医にて定期受診、急変時に適切に受診を受けられるように支援している。必要な診療科目も往診や受診の支援もしている。	利用者や家族が希望する医療機関で受診できるよう支援している。歯科の往診診療や訪問看護、急変時の対応がなされている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日のバイタルチェックや一人ひとりの状態の把握を行い、訪問看護と連携を行いながら適切な受診が受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者が入院した際は早急に情報を提供し、家族や本人の負担にならないように相談、話し合いを行い、早期に退院ができるように病院関係者との関係づくりを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時、契約を行う際に終末期の説明、確認を行っている。重度化した際にその都度、確認、家族や医療機関と連携を図っている。	利用者や家族のニーズを確認し、契約書に記入している。必要な時期に家族の意向を再確認し、主治医、訪問看護、職員と話し合い、ホームの具体的な方針を決めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時は訪問看護や医療機関に連絡を取り、対応できるようにしている。また、必要に応じ、オンコール体制をとっており、急変、事故発生に備えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防訓練を実施、全職員で火災や地震の災害時の対応ができるように努めている。運営推進会議にて災害時の協力もお願いし協力体制をとっている。備えとして飲料水は保管している。台風時にはその都度、食料も準備している。	防火訓練の実施や地震マニュアルを作成しているが、火災以外の自然災害の避難訓練が少なく、協力体制の具体的な支援内容が確立されていない。	台風や水害時の避難時期の判断、地震発生時の避難方法、具体的な協力支援内容を確認した協力体制の構築や合同訓練を行うことを期待したい。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重するように個々に応じた言葉かけを行っている。居室やトイレ、入浴時でもプライバシーの確保に心がけて対応している。	職員は利用者一人ひとりの尊厳とプライバシーの保護について理解しており、慣れあいにならないような言葉かけに努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	常日頃から一人ひとりとコミュニケーションをとり思いや希望を引き出すように取り組み、自己決定できるように対応している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者、それぞれの生活リズムに合わせ、起床や就寝も一人ひとりの状態に合わせて対応し日中の過ごし方も希望にそって支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の希望や好みを尊重し、その日の天候や気温にあわせた服装を選んでもらい、季節感や清潔保持ができるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの好みも踏まえ、行事や季節の食材を使った献立で入居者にも調理の下準備や片付けも行ってもらい食事を楽しむ事ができるように支援している。	利用者の好みを取り入れ、職員が家庭的な献立を全てホームで調理している。水分摂取や整腸作用を目的に、毎日、ゼリーとヨーグルトを手づくりしている。利用者も職員と下ごしらえや配・下膳、味見などを行い、職員も一緒に食事をし、会話が広がり楽しい雰囲気となるよう努めている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食の食事量、水分量のチェック、体重測定を行い、栄養状態を把握しバランスよく食事、水分摂取ができるように支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	夕食後は全員、口腔ケアを行い、毎食時は個々に応じ口腔ケアを行い、口腔内清潔保持に努めている。訪問歯科の診療も行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェックを行い、一人ひとりの排泄パターンを把握し、排泄失敗が無いように声かけ、誘導を行いトイレでの排泄、自立にむけた支援を行っている。	排せつの自立習慣を継続するようチェック表を活用し、パターンやサインに注意して、可能な限りトイレでの排せつを支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝の牛乳や手作りのヨーグルト、食材の工夫、水分摂取にて便秘予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週3回の入浴となっているが個々の状態に合わせて、時間帯や曜日を決めている。入浴拒否がある場合も無理強いしないで気持ちよく入浴できるように個々にそった支援をしている。	洗い場が表面におうとつのある木製のモザイクブロックのため、車椅子の移動負担があり、更に老朽化しており、腐食部分の排水が悪く、使用するたびに消毒している。	老朽化した部分が細菌や害虫の温床になる可能性があり、衛生的な配慮を望みたい。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	安易に眠剤は使用せず、日中の過ごし方に工夫を行い、就寝時間も個々に合わせ、良く眠れるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書を個々のケースにとじ、全職員で共有できるようにしている。処方の変更時は日報やケースに薬の目的、副作用を記録、確認できるように努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの力を活かすように洗濯物たたみや食材の下準備や掃除等を手伝ってもらったり、塗り絵や折り紙、カラオケなどの楽しみごとの支援も行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的な外出は出来ないが季節の花見やドライブで外出の支援は行っている。家族にも外出をお願いし、馴染みの場所や懐かしい場所で過ごせるように外出支援を行っている。	近くのスーパーに車椅子でも行けるので、散歩と買い物を兼ねて外出している。季節行事に花見を取り入れ、弁当を持参したり、外食を計画している。個別には、家族の協力を依頼することが多くなっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族に了解を得て、個々に預かり金を管理している。本人にも説明、納得している。欲しい物や必要な物は職員が買ってきたり、本人と一緒に買いに行ったりして支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族への思いが強い方や帰宅願望の方に家族了解のもと電話をしたり、遠方の家族にも電話をかけつながりやが途絶えないように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関には、季節の花を置き、ホール内には季節感を出した飾りつけを行ったり、居室にも個々にあった部屋作りを行い、居心地のよい空間作りに努めている。	居室周りの広い廊下を多目的に利用しており、庭園を見て四季の変化を感じることもできる。場所や居室を迷わないように表示している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホール内のテーブル席は入居者間のトラブルがないように席の位置を配慮している。また、廊下にソファを設置、気軽に談笑したり、独りになりたいとき等自由に過ごせるように工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族にて在宅生活時の馴染みの物や使い慣れた物を持ってきてもらったり、担当職員からの飾り付けやアイデア等で居心地良く過ごせるよう工夫している。	担当職員が家族と相談しながら、利用者の希望や個性を生かした部屋づくりを支援している。部屋の掃除や衣類の収納は、利用者ができることを見つけて、一緒に行うようにしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	本人の状態に応じ、居室選び、ベッドや家具の位置などの検討を行い、安全、安心で自立した生活が送れるよう工夫している。		